

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グローバル生存学大学院連携プログラム	申請大学名	京都大学
申請大学長名	松本 紘		
プログラム責任者	淡路 敏之		

1. 進捗状況概要

- ・短期間に計画を推進しており、プログラム運営体制はほぼ整備されている。
- ・実施計画については、申請計画にはない予科を設置してさらに学生の適性を見極め、最終的な選抜を行う体制をとるなど、全体として意欲的に実施されている。また、キックオフ国際ワークショップや国際アドバイザーの選任、前期カリキュラム等が実施されており、学生の意欲も高い。グローバルリーダー養成の教育体制が確立しつつあり、今後本格的展開が期待される。
- ・教育内容については、履修要項を作成して、カリキュラムポリシー、履修科目、修了要件等を明示しており、基本的要件・ルールは明確になっている。一方、カリキュラムでは、9 研究科と 3 附置研究所が提供する科目に加え、学年進行とともに国際スクール、産学連携プロジェクト等の多数の実習系科目の履修を課すことになっており、質・量ともに多種多様な科目が提供されるものになっている。そのため、今後、履修生が確定するのに合わせて、研究科横断型プログラムとしての明確な履修モデルを具体化する必要がある。
- ・本プログラムの運営面では、総長を機構長とする「リーディング大学院学位プログラム運営機構」の設置を予定しており、学長を中心としたマネジメント体制が確保されている。さらに、連携運営組織「グローバル生存学大学院連携ユニット」を設置し、その下にプログラム教授会を置いて運営体制を構築している。その下で、9 研究科、3 研究所からの教員の参加、特定教員の雇用、40 名以上の国際アドバイザーの選任等の指導・支援体制が順調に構築されている。
- ・優秀な学生を確保するために、3 地区での全学説明会等の工夫がなされている。また、若手の”Rising Leader”の講演等、学生にグローバルリーダーを目指すことを意識させる取組が行われている。
- ・学生は非常に活発で意欲が高く、どの学生からも自分の研究科（室）を超え、他の分野と協働したいという気持ちが強く伝わってきた。学生の意欲と社会のニーズに応える教育プログラムとして展開することが期待される。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

- ・本プログラムは、種々の災害・事故リスクをもって日々活動している産業界、基礎科学に基づく実践科学を体系化し社会に役立てようとする研究者や学界、さらには、国際機関、国・地方レベルの行政組織、マスメディア等で活躍するグローバルリーダーの育成を目指しており、そのための研究科横断型学位プログラムの設置は我が国の大学院教育改革にとって新しい挑戦である。これまでそのスタートアップを推進してきた京都大学及び中心的メンバーの意欲と努力は高く評価される。この目標の達成には、構想に基づく独自の研究科横断型教育プログラム構築が必要であり、それに向けて参加研究科及び研究所の一層の連携・協力が期待される。
- ・4つの柱となる分野のうち、人為的災害については、他の3つと比べ、やや手薄いように見受けられる。今後、連携先など更なる検討を期待したい。
- ・外向きになっている学生の意識を「グローバルリーダー」にどう繋げていくかを検討

し、日本の大学院教育向上のモデルを構築して頂きたい。

- 研究科横断型プログラムとして、他専攻の学生も含め、多くのプログラム担当者が積極的、かつ密に連携して指導に関わる必要がある。学生との対話の場を用意することも重要である。
- 学生にとって修行の場という意識を忘れず、学生自身が考え、発信するためのツールを用意することが期待される。
- 現在、特定教員の居室及びプログラム事務室等は別の建物に間借りしているが、学生が帰属意識を持って参加するためにも、まとまった研究室等の確保が必要である。